





# 五十嵐教授がデザイン 葉脈で環境に優しいイメージを



葉脈をイメージしてデザインされたタクシー

今春から県内の大貫根タクシーハイブリッド車(PHV)のデザインを宮野菜さん(茨城県土浦市)の2社が使用を始めた。五十嵐浩也教授(芸術系)が監修した完成したデザインは白い車体に葉の葉脈の柄が施されたもの。このデザインは、今後、PHVだけでなく電気自動車やハイブリッド車など、県内のタクシー会社で導入されるエコタクシーすべてに施される予定だ。今回導入されたPHVは、短距離の場合は電気を、長距離の場合は電気とガソリンを併用することで、二酸化炭素の排出を抑え、かつ長距離走行ができる。そのため、電気自動車やハイブリッド車などと並び、環境に優しい車として期待されている。

## 省・県から補助金などを受 け、県内で初めてPHVの 採用を決定。導入を前に エコタクシーが環境に優 しい車であることをアピール し、県内に広めるという目 的で、本学の五十嵐教授研 究室にデザインの考案を依 頼した。

五十嵐教授は「これは何だろう」と見た人に興味を持たせるようなデザインを意識して、文字などは書かず、葉脈だけのシンプルなものにしたと話した。

## 文科科学大臣表彰式 松本教授ら3人が受賞

平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰式が4月16日に、文部科学省講堂(東京都千代田区)で行われた。本学からの受賞者は、赤平昌文特命教授(二瓶雅之准教授(数物系)、松本正幸教授(医学医療系)の3人。科学技術分野の文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発などで顕著な成果を収めた人の功績をたたえるもの。研究者の意欲向上を図り、日本の科学技術を発展させることが目的だ。

## 留学生の目 「日本の生活を楽しんで いますか?」と聞かれ

「はい」と答えま  
す。例えば、言うまでも  
ないと思うが、発展途上  
国から来た私にとっては  
先進国の日本の生活はと  
ても豊かで便利です。コ  
ンビニはどこにでもあっ  
たら、一瞬もたためらわ  
ないで、「はい」と答えま  
す。例えば、言うまでも  
ないと思うが、発展途上  
国から来た私にとっては  
先進国の日本の生活はと  
ても豊かで便利です。コ  
ンビニはどこにでもあっ

## 日本語で思い伝えたい

でも、これからもっと  
日本語の勉強を頑張るし  
かありません。友達の間  
待たなくても、頑張  
ります!(社会学類・原  
文も日本語!!ベトナム出  
身)

# 第29回 つくば芸術祭 春のつくばを彩る



ジャズ研究会による演奏

## 多様な演出で観客を魅了

本学の芸術・文化系サークルが日ごろの成果を披露するイベント「つくば芸術祭」(主催=芸術系サークル連合会)が5月3-5日、つくばセンター周辺地区(つくば市吾妻)で開催された。

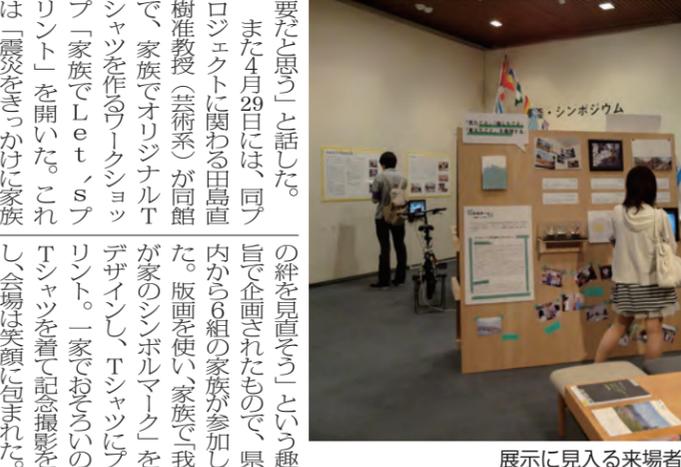
29回目となる今回は「君と、私と、心と魂」をテーマに、19の団体が楽器の演奏や作品の展示などを行った。

ジャズ研究会による演奏は、東京から訪れた男性は「ジャズは今後ののんびりとした雰囲気合っている。屋外でジャズが聞けたのが良かった」と満足気に語った。

「アートイモール前モニュメントプラザでは、ジャズ愛好会による演奏会が行われた。東京都から訪れた男性は「ジャズは今後ののんびりとした雰囲気合っている。屋外でジャズが聞けたのが良かった」と満足気に語った。

## 芸術を通して復興支援 作品で思い表す

芸術を通して震災の復興支援を行う「筑波大学創造的復興プロジェクト」の活動報告展が、3月25日から5月19日にかけて、茨城県近代美術館アートフォーラム(茨城県水戸市)で開かれた。



展示に見入る来場者

「震災をきっかけに家族の絆を見直そう」という趣旨で企画されたもので、県内から6組の家族が参加した。版画を使い、家族で我が家のシンボルマークをデザインし、Tシャツにプリント。一家でおそろいのTシャツを着て記念撮影をし、会場は笑顔に包まれた。

劇団サークル「SONICBOOM」の第91回春公演「あのね」が5月5-6日に1E棟102で行われた。今回の公演は三宅映未さん(芸専2年)の一人芝居。投稿募集

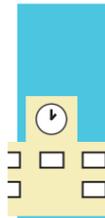
本紙では皆さまからの意見・反対鏡などの投稿を募集しています。TEL 0296-853-6909



# 教育現場を支える

# 教科書作成特集

## 教科書を作る



本学には小中高大で使われる教科書を作成する教授が多い。国内だけでなく、海外で使われる教科書を作成するなど、教育現場に大きな貢献をしている。教科書はどのように作られるのか。児童や生徒のために、作成者はどのような工夫をしているのか。その舞台裏に迫る。(中島佳奈Ⅱ人文学類、原啓一郎Ⅱ社会学類、倉沢美紀Ⅱ国際総合学類、市原ひかりⅡ社会学類)

## 英語

「最新の研究成果を取り入れることが、教科書作成者の使命」と卯城祐司教授(人社系)は語る。同教授は中学校用「SUNSHINE English」や、高等学校用「ELEMENT English」(啓林堂)など、多くの教科書を作成している。この他にも、教科書には多くの工夫が凝らされている。各レッスンの最初には、

## 教科書を作る



地・メキシコに伝わった。そのメキシコと日本の橋渡しをしたのが、日本の数学教育を広めるために世界中を回る、磯田正美准教授(人間系・教育開発国際協力センター)だ。



数学教育の教科書のの中身

## 最新の研究成果を反映

掲載する英文の題材にもこだわりがある。「英文の内容を、家に帰って両親に話したい」と生徒が思えるものを選びたい。掲載されている10ほどの題材は、本やニュースの内容を元に書かれた、400以上の候補の中から選ばれたもの。「どこから選ばれたのか」「どこもあらずしを聞いただけ



作成した教科書について語る卯城教授

## 教育学で世界をリード

同准教授が作成に関わった数学教育の教科書が、今年1月から、メキシコで教育を目指す学生たちが学ぶ、師範大学で使われ始めた。これは日本の小学校の算数教材を題材に、数学教育の目標や指導内容について説明したもので、裏表紙には本学の校章と「筑波大学」のロゴが描かれている。本学とメキシコとの関係は、同国側からのアプローチで始まった。メキシコでは、日本のように系統的な数学教育が行われていない。小学校の算数教材は1ページの大半が日常生活の様子を描いたイラストで、教える順番もばらばら。2009年にOECDが行った国際数学的リテラシー調査では、65カ国中51位という結果が出た。数学教育の立て直しが必要であると考えた同国の教育省は、中南米で小学校の算数教材の作成に関わって

## 体育

菊幸一教授(体育系)は、約20年間、「現代高等保健体育」(大修館書店)の作成に携わっている。この教科書の中で「体育編」の部の執筆を担当している。教科書を書く人は、学習指導要領を熟知している必要がある。同教授は平成元年から学習指導要領改訂に関わることもあったため、大修館書店から声が掛かり、執筆することになった。スポーツには、勝ち負けだけではないさまざまな価値がある。そのことを生徒たちに柔軟に考えさせることが、同教授の狙いだ。そのため、「やってみよう」や「考えてみよう」などのコーナーを設けた。トピックとして具体的な事例や写真

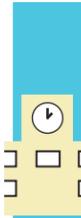
## 正確で面白い教科書を

「考えてみよう」や「やってみよう」などのコーナーを設けた。トピックとして具体的な事例や写真

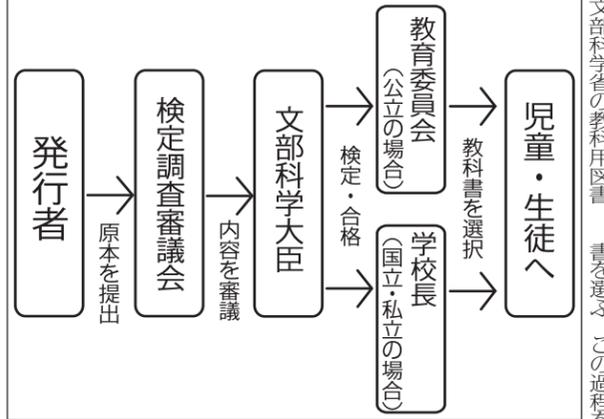
## 多くの基準満たし、発行

現在使われている教科書の80%が、教科書発行会社によって作成される。文科省の検定を経て発行されている。この目的は、民間会社の創意工夫が教科書に生かされること、検定により客観的・公正で適切な教科書を確保

## 教科書ができるまで



小中高で使われる教科書は、実際に児童・生徒の手に渡るまでにさまざまな過程を経る。ここではあまり知られていない教科書作成の仕組みを紹介する。



教科書ができるまでの流れ



菊教授が作成に携わった教科書

する。この他に需要が少ないため、民間会社による発行が期待できない農業・工業・水産などの教科書や、特別支援学校用の教科書は文科省で作成されるものもある。教科書の作成では、まず発行者が学習指導要領などを元に原本を作り、文科省の教科書用紙に記入する。この過程を経る。教科書の作成は、まず発行者が学習指導要領などを元に原本を作り、文科省の教科書用紙に記入する。この過程を経る。教科書の作成は、まず発行者が学習指導要領などを元に原本を作り、文科省の教科書用紙に記入する。この過程を経る。

「先生も生徒も興味を持って、先生が面白いと思わなければ、その教科書が」と語る。先生が面白いと思わなければ、その教科書が



# 自転車の海つくばで



グ導入に肯定的な意見が目立った。一方、金銭面の負担がかりだという意見や、登録開始日時など詳細が決まっていないことを非難する意見もあった。

また、学生自身の駐輪マナーの順守状況に関しては、「守っている、守ろうとしている」という学生が多かった。一方で、「授業時間に間に合わせるため、駐輪場に空きがなく止める場所が分からない」とも



自転車の迷惑駐輪が後を絶たない3A棟前

このような状況の中でも、自転車盗難に役立つことへの期待などからICTが

## 「仕方なくマナー違反」の声も

も狭い……など非難の声が多い。だが、学生がマナーをもっと守るべきだなど、学生側の問題を指摘する意見もあった。設備面、学生側のマナー双方とも、「悪い」という認識が共通しており、自転車環境に学生が問題意識を持っていることが分かる。

## 開始までに十分な周知を

だが、学生らは今回の「自転車・バイク登録制度」の周知徹底が必要だ。例えば学群・学部と協力し、説明会を開催する必要がある。3月に説明会を行ったが、春季休業中ということもあり、参加者は少なかつたという。だが、同制度が適切に導入されれば、本学の「自転車問題」への解決に向けた大きな前進となるのは間違いない。今、政府



開学以来本学を悩ませてきた自転車問題に、一つの区切りが付く。「自転車の海」にICTタグを打ち込むことは、全国の大学でも始めての試みだ。

登録受付は5月中には始まるという。今後は、10月1日の制度開始までに、学生への周知徹底が必要だ。例えば学群・学部と協力し、説明会を開催する必要がある。3月に説明会を行ったが、春季休業中ということもあり、参加者は少なかつたという。だが、同制度が適切に導入されれば、本学の「自転車問題」への解決に向けた大きな前進となるのは間違いない。今、政府

### 「T∞」スタッフ募集

筑波大学に関係のある著名人8人を招いて行う講演会「T∞」を私たちと一緒に作り上げませんか？

問い合わせ=brast.tsukuba@gmail.com(代表 中村)  
詳細=http://www.brast-tsukuba.com

### アカスジキンカメムシ

撮影地=筑波実験植物園

モノトーンの幼虫時代とは一転して、成虫の姿は新緑の喜びに満ち満ちているかのような豪華げな色どりである。全身が黒っぽいもの、赤い帯が紫色を帯びているものもあり、彼らの個性を垣間見られるが、死ぬと紫色あせてしまう。この新聞が発行されるころには、彼らも現れるはず。大学構内にもいるので、ぜひ探してみよう。(写真文=武藤将道、生物3年、野生動物研究会)

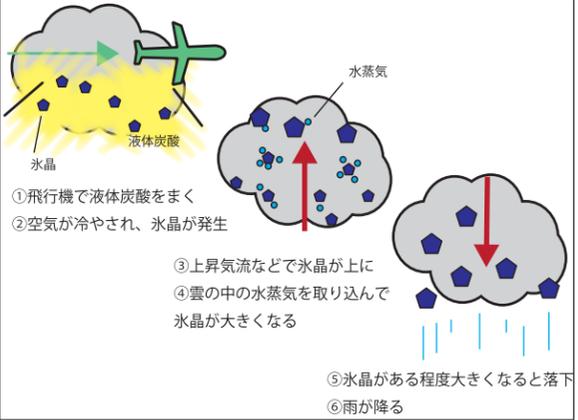
## HELLO! 先端科学

雨乞いなどの風習が昔から世界中にあるように、天気を自由に操ることは人間の一つの夢だ。現在は「人工降雨」という技術を使って、雨をある程度、人間の意志で降らせることができる。真木太二客員教授(九州大学名誉教授)もその研究者の一人だ。

## 人工降雨 2時間で100万トンの降雨 「天気を操る」夢に近づく

真木太二客員教授は、液体の二酸化炭素である液体炭酸を使って、氷晶を発生させる方法を研究している。まず、約マイナス90度の液体炭酸を、飛行機で雲の内部の下の方にまく。するとすぐに気体になり、周りの空気を冷やす。これにより雲の内部の水蒸気が凍って氷晶が発生する。発生した氷晶は雲の内部

の上乗気流に乗りながら、周りの水蒸気を吸収し、成長。こうして雨が自然に降るしくみを人工的に作る事ができる。同客員教授は3月14日に東京都の三宅島と御蔵島で、液体炭酸を使った人工降雨の実験を行った。その結果、約2時間で100万ト以上の雨が降った。実験は2回連続で成功しており、有効性が実証された。ヨウ化銀など他の物質を使った人工降雨の技術もあるが、液体炭酸を使うと、低コストで多くの雨を降らせ



## いろいろな分野の知識を



留學生の後輩から原稿の依頼が来た時、外国人の主に日本人学生向けの新聞に文章を書いてほしいのかと心配だった。しかし、留学生というカテゴリより筑波大出身先輩として、そして人の少し先立った人として、現役の筑波大生へ一言言いたく、依頼を受け入れた。私は国費留學生として2005年に自然学類に入学し、2009年に卒業と共に同大学院に入った。そして東北地方地震の余波で慌ただしかった2011年春に修士学位を取得し、韓国に帰国した。現在は国立の研究機関である高等光技術研究所で研究員として、兵役の義務を果たしている。20代の半分を占めた日本の生活は私にとって、忘れられない思い出。これから進んで行きたい道への土台になったと思う。

最初入学してからは同期の学生たちとは言葉の問題や文化の違いで、あまり人と付き合うことができなかった。サークル活動などもトライはしたが、すぐ辞めてしまった。しかしそれが寂しいとか問題があると思わなかったのは、自分が興味を持つ分野の知識を自由に学べる楽しさが大学にはあったからだ。約2年間はこのように学ぶことはなかった。大学3年生になってからは、友達もたくさんできたが、私はこれからの進路を探することに熱心した。私は研究者への道を希望したので、学業を続



て、第一に優先したのは学問の学びであった。それは新しいことを学び、楽しむ

さもあったが、人生の中で幅広い分野の知識を学べる機会が大学時代にしかないと思っていた。人は自分の持っている知識の範囲内で考えを判断する。だから何より広い見聞を持つことが重要だし、その見聞を広める良い機会がこの大学時代にあると思う。当時友達の中で就活に夢中になり、学業を軽視する人がいたが、得るものより失うものが多いと思う。サークル活動なども一生懸命するが、それに負けず熱心な風を吹かしている分野への知識を身に付けておきたい。(平成20年度物理学類卒・原文も日本語)



# 第14回東日本大学セブンズ選手権大会 本学優勝、2連覇達成



相手を振り切りトライを狙う山沢

### 期待の新星・山沢も活躍

ラグビー

第14回東日本大学セブンズ選手権大会が4月21日に秩父宮ラグビー場(東京都港区)で行われ、本学が優勝。2連覇を果たした。

正大相手に45-5と大差をつけて勝利した。続く準決勝では流通経済大と対戦。これまでも圧倒的な強さで勝ち上がった本学だが、相手のマークと力強い攻撃に苦戦した。しかし最後は本学が粘り、10-7で勝利。決勝戦の相手は明治大。決勝戦の相手は明治大。強豪相手に圧倒し、前半を

## 男子 6連勝もその後苦戦 女子 流れつかめず



バレー

春季関東大学リーグ戦が4月13日から19日にかけて早稲田大学戸山キャンパス記念会堂(東京都新宿区)などで開催された。5月12日時点で、男子は6勝3敗で5位、女子は3勝4敗で6位という順位になった。

男子は、1回戦で法政大と対戦。第1セットを25-20で勝ち取るも、その後はシーソーゲームが続ぎ、第5セットまで突入した。互いに譲らない展開が続いたが、終盤の連続得点が決め手となって、3-2で勝利した。その後2回戦目の相手、東京学芸大を3-0で下すと、勢いに乗った本学は6連勝。

しかし7日目に迎えた順天堂大戦では、果敢に攻撃するも相手のブロックに阻まれ、苦戦を強いられる。第1セットを先取るも、第2、4セットを次々と奪われ、1-3で敗北。続く慶應義塾大戦、早稲田大戦でも相手の勢いに押され、

### 関東大学春季大会 明治大に快勝

第2回関東大学春季大会が4月28日に開幕し、本学ラグビー場で行われた初戦の明治大戦では、本学が45-0で圧勝した。

開始直後から積極的に攻め込んだ本学は、前半6分、村川浩喜(体専4年)が先制トライを奪った。その後も23分、32分にそれぞれトライを決め、相手に攻撃のすきを与えないまま前半を21-0で折り返す。

後半7分、見事なパスプレーの末、高橋謙介(同4年)が走り込みトライ。10分にもトライを決めたが、その後は攻められる場面が多くなる。しかし、ライン前まで押されても焦らずボールを奪い続け、今試合で合計7トライを決めた。副将の下釜優次(同4年)は、「相手を0点に抑えることができて良かった」と振り返った。古川拓生監督

### 日本代表にも選出される

第89回日本選手権水泳競技大会

水泳競技

第89回日本選手権水泳競技大会が4月11-14日にダイエープロビンスフェニックス(新潟県長岡市)で行われた。

男子の部では、坂野栄一(体専4年)が50メートル背泳ぎで2位の成績を挙げ、日本代表に選出された。また、金子雅紀(同4年)が50メートル背泳ぎで1位に、200メートル背泳ぎで6位に入賞。女子の部では諸貫瑛美(同3年)が50メートル背泳ぎで2位の成績を挙げ、日本代表に選出された。

### 本学生が中心で運営

テニス

第3回筑波大学国際テニストーナメントが、3月30日から4月7日にかけて体芸テニスコートで開催され、国内外から64人が出場した。

同トーナメントは本学の国際テニス大会実行委員会が主催したもので、運営の主体は本学生。また、試合の審判も本学のテニス部の学生が担当した。

これに先駆けて、3月23日には同トーナメントの出場選手を決定するためのワイルドカード大会が、洞峰公園テニスコート(つくば市二の宮)で行われた。数字が書かれた的に向けてボールを打ち、点数を競うターゲットテニスなどの種目で行われた。

エクスサイズとして認知されているエアロビクス。だがその「競技版」であるエアロビックスの存在は意外と知られていない。その日本の第一人者が諏訪部和也(体科1年)だ。2009年から全日本選手権で3連覇し、引退後は指導者としてエアロビクスに関わっている。

### ラグビー部がグランプリに 強豪を破る活躍が評価

つくばスポーツ大賞2012

昨年にスポーツの分野で活躍したつくば市内の団体

委員会(学生側代表、廣田真也さん(体専4年))は「運営や広報などで課題が残る部分もあったが、地域の人たちと関わりつつ運営ができたのは、貴重な経験だった」と語った。

「細かい動きの感覚がつかめず、大会でも不安だった。」  
厳しい環境の中での支那との関係に悩みつつも「徐々に観客と一体になる感覚が分かるようになってきた。」

自分育てたスポーツに恩返し

バレーを習っていた

や個人を表彰する「つくばスポーツ大賞2012」(主催II Vision ネットワーク)の表彰式が4月7日(土)ラグビー部(つくば市小野崎)で開かれ、本学ラグビー部が大賞を受賞した。

同部は昨年秋以降に行われた関東大学対抗戦で、強豪校の帝京大と早稲田大、慶應義塾大を撃破し、創部以来初となる対抗戦優勝を果たした。また、対抗戦で上位の大学が出場できる大学選手権では、国立大で初

### 諏訪部和也(体科1年)

エアロビクス界の未来を担う

諏訪部和也(体科1年)は、現在大学教員を目指す。研究は「エアロビクス」(自分育てたスポーツ)をテーマにしている。

「エアロビクスはまだ競技スポーツとしての認知度は低い。競技者としての立場と研究者の立場を併せ持つ僕らだからこそ、この普及に貢献したい。」



「エアロビクスは観客の前で、軽快な音楽に合わせてステップを踏みながら、開脚やジャンプ、回転をする。柔軟性やバランス感覚、リズム感だけでなく、瞬発力や持久力も求められる。だが、日本ではスポーツとして認知度が低く、練習環境や選手への援助体制も乏しい。」

「エアロビクスは観客の前で、軽快な音楽に合わせてステップを踏みながら、開脚やジャンプ、回転をする。柔軟性やバランス感覚、リズム感だけでなく、瞬発力や持久力も求められる。だが、日本ではスポーツとして認知度が低く、練習環境や選手への援助体制も乏しい。」

自分育てたスポーツに恩返し



自分育てたスポーツに恩返し



サンフランシスコ州立大学

(アメリカ)

佐々木誠

昨年の8月から、カリフォルニア州立大学群の一つ、サンフランシスコ州立大学に交換留学しています。

僕は今まで典型的な日本文化の中で育ってきました。日本にいたころは基本的に空気を読み、相手を不快にさせることほ言わず、自分の考えを強く主張することは少ない

方だったと思います。このため、留学生活の前半は、あまり社交的になることができず、勉強中心の生活を送っていました。



ニューヨークで友人と(左が佐々木さん)

国民の考え方がオブラートに包まれることなく融合したからと、アメリカは世界で一番影響力のある国になったのだと思います。

しかし、アメリカ人の友達はそのような僕の性格を指摘した上で、「アメリカでは積極的に自分を主張しないと誰も助けてくれない。自分が思っていることを隠さず、言った方がよい。自分を主張すれば皆が受け入れてくれる」と、日本人にはなかなか無い鋭い口調で単刀直入に教えてくれました。このアドバイスのおかげで、僕は勉強だけではなく充実した生活を送っています。最近はそのような国民が異なる文化を背景に、多様な考え

### それぞれの国の良さを知る

### かるた作りで親睦深める

Tsukuba for 3.11

## 福島県からの避難民と交流



共にかるたの案を出す本学生と参加者

福島県からつくば市に避難している人たちがかるたイベント「みんなで作る

う！つくば春カルタ」が4月20日、研究学園駅前公園内の「つくばスタイル館」(つくば市葛城根崎)で行われた。震災の影響で福島県からつくば市に避難している人は約500人いるが、つくば市民と交流する機会が少ないのが現状。そこで、市民と避難民が親睦を深める場を設けようと、本学で震災の被災者支援などを行う団体「Tsukuba for 3.11」が同イベントを主催した。今年度は、かるた作りのイベントが計4回行われる予定で、今回はかるたの内容を決め、次回はかるたの読み札を作り、3、4回目は取り札作りなどをする。

はじめに、福島県とつくば市それぞれの季節の風物詩をテーマとして、かるたの内容について参加者が意見を交換した。春は山菜、たけのこ、夏は阿武隈(山地)の新緑、「野馬追」(馬を放して捕まえる祭り)、「秋は鮭の川上り」

「冬はなるます」……。福島県の四季折々の風景を想像させるような言葉が、会場にあちこちから聞こえてきた。かるたの案を一通り出し終えたところで、参加者全員で昼食の準備に取り掛かった。おにぎりやお吸い物が出来上がると、テーブルを囲んで会食。和やかな雰囲気の中、参加者同士の会話が弾んだ。

イベントの最後には、本学の長谷川聖修教授(体育系)が考案したという、

### 最先端の科学を紹介

### クイズや実験で楽しく学ぶ

地域の子供たちに最先端の科学を紹介するイベント「ギンズ・ユニバーシティ」が4月20日、総合研究棟Aなどで行われた。多くの親子連れが本学を訪れ、科学的な考え方を理解し、科学の世界に目を輝かせた。

参加者に本学の講義を分かりやすく行う特別授業「どうなるの？ どうするの？ 地球温暖化」では、山中勲准教授(生環系)が地球温暖化について解説。「100年間で地球の温度は何度上がったか」「地球温暖化の原因は何か」といったクイズを交えながら授業が進められた。



生き物と触れ合う子供

「なにかよし体操」を実践。互いに肩をたたき合った後、ハイタッチをしたりと、参加者は笑顔で体を動かした。福島県双葉町から避難している古山美奈子さんは「かるたの内容について話しながら、地元のことをありありと思い出すことができ、懐かしい気持ちになった。とても楽しい時間を過ごせた」と感想を話した。

総合研究棟A111では「面白不思議科学実験工作隊」という企画が行われ、小林正准教授(数物系)が多くの実験器具や科学のおもちゃを紹介。静電気発生装置や液化窒素など研究の現場で使われるものから、竹とんぼなど身近なものまで並べられ、参加者は自由に見たり触れたりした。

小林准教授は「子供たちは興味津々の様子だった。扱い方の難しい実験器具を用意するのも良いが、簡単なおもちゃも用意することで、科学をより楽しんでもらえたと思う」と話した。(12面に関連写真)

### 日本語で覚えるネイティブの英語発音

### 3週間で綺麗な発音に 独自の表記を記載

「なにかよし体操」を実践。互いに肩をたたき合った後、ハイタッチをしたりと、参加者は笑顔で体を動かした。福島県双葉町から避難している古山美奈子さんは「かるたの内容について話しながら、地元のことをありありと思い出すことができ、懐かしい気持ちになった。とても楽しい時間を過ごせた」と感想を話した。

本書の元外国語センター長である島岡丘名誉教授が監修した参考書、「日本語で覚えるネイティブの英語発音」が、3月に刊行された。

この参考書には同名名誉教授が開発した「島岡式カタカナ表記(SKT)」が使用されている。これは、英語の発音をカタカナで表記したもので、カタカナをそのまま読めば、自然な英語が発音できるというもの。例えば「Canada」という単語には「ケアナダ」というカタカナが書かれている。発音の強弱はカタカナの文字の太さや大きさを区別されており、アクセントもマスターできる。1日あたり6〜8個の単語を3週間練習するだけで、母音と子音全ての発音や、簡単な日常会話の発音が分かるようになる。

同名名誉教授は「この参考書を使えば誰でも自然な発音がマスターできる。どんなに英語が苦手な人でも自信を持って英語を話せるようになってほしい」と語った。

島岡名誉教授が監修した本

### 第6回筑波学生文芸賞

第6回筑波学生文芸賞の作品募集が、4月1日から6月30日(日)まで行われている。募集しているのは400字詰め原稿用紙換算で20枚以内のペリシヨート部門と、21〜80枚の一般部門。ペリシヨート部門ではペリシヨート賞1〜3作品、一般部門では大賞1作品と佳作2作品程度が選ばれる。

### ドイツデー

筑波大学ドイツデーが5月29日(水)に開催される。当日は12時30分から1C棟310でウィム・ヴェンダース監督のドイツ映画「ベルリンの天使の歌」を上映。また、15時から1D棟204で「大学の国際交流とドイツ体験」「ドイツでの留学」をテーマとした講演会が行われる。18時からはスプリアクトリーでパーティーを開催。パーティーの参加費は学生500円、教員3000円。

問い合わせ：内線4177(武井隆道教授) 人社系、内線2429(マリア・ガブリエラ・シュミット准教授) 外国語センター

### アメリカ型福祉国家の形成

1935年社会保障法とニューディール

佐藤千登勢 著

### 筑波大学出版会

1935年、大恐慌で失業者があふれるアメリカで、社会保障法が成立した。伝統的に自助や個人主義が重んじられてきたアメリカで、なぜこの時期に社会保障制度が誕生したのだろうか。またそれは、どのような保障を国民に与えたのだろうか。本書は、フランクリン・D・ローズヴェルト大統領が行ったニューディール政策の一環として制定された社会保障法を様々な角度から検討し、アメリカ型の福祉国家の起源を明らかにする。執筆者は本学人文社会科学系准教授。A5判並製、約250頁。6月中旬刊行予定。3200円＋税。

Creating the Welfare State in the United States  
Social Security Act of 1935 and the New Deal  
アメリカ型福祉国家の形成  
1935年社会保障法とニューディール  
佐藤千登勢著  
(Thomas S. Saito)

人文社会科学系准教授 A5判並製 約250頁 6月中旬刊行予定 3200円＋税

# Good Job 2013 ~夢のお仕事体験場~ 子供たちの職業体験イベント開催



消火活動を体験する子供

## 夢の職業に目を輝かせる

子供たちが職業体験をするイベント「Good Job 2013」が、5月11日(土)に中央公園(つくば市)で開催された。約2000人の子供が参加した。

「子供たちが職業体験をするイベント「Good Job 2013」が、5月11日(土)に中央公園(つくば市)で開催された。約2000人の子供が参加した。イベントは、子供たちに働くことの楽しさを伝えることを目的として、本学を主とした実行委員会が運営している。今年も「子どもたちに夢と元気を」と、本学のサークルや市の企業が19のブースを設置した。子供たちは郵便局員や新聞記者などとして働き、それによって得た疑似通貨「ジョブマネー」を使って、おもちゃや駄菓子などを購入したり、ゲームを楽しんだ。特に人気だった職業は警察官の職業体験。逃走した犯人を捕まえる場面では、警察官の帽子を被った子供たちが全力で走り回った。つくば市内から訪れた小学3年生の男子は、「本物の警察官みたいで楽しかった」と笑顔で語った。

## 急性アルコール中毒多発 未成年の飲酒も発覚 モラルの無さ浮き彫りに

4月20日に起きたケースでは、課外活動団体の集會中、未成年の学生が飲酒中、急性アルコール中毒になり、病院へ搬送された。学生には所属学類長から嚴重注意が行われ、団体は一定期間の活動自粛となった。未成年飲酒やイッキ飲みなどは社会的に問題となっており、昨年には、小樽商科大学や慶應義塾大学などで飲酒による学生の死亡事故が発生。本学でも過去に不適切な飲酒により学生が死亡した事故がある。本学では2007年ごろから新生対象のフレックシブマン・セミナーなどで飲酒について注意喚起を始めてきたが、昨年は「急激な飲酒による死亡事故が多発している」と訴えた。同課では、宿舎などで行われる今後も注意を呼びかけていくとし、飲酒に関する事故が起きた場合は厳しい対応をしていく方針を示した。

## つくばセンターに大型ビル 新たなつくば市の顔に

つくば市は4月12日、つくばエキスポプレスクは「つくばターミナルビル」に建設予定の「つくばターミナルビル」について設計や施設整備を担当する事業者の募集要項を発表した。つくばターミナルビルは「つくばの顔」として市の玄関口に新たなにぎわいと交流をもたらし複合施設になることを目標として建設される。6月31日までに募集を受け付け、9月に事業者を決定。来年度中に着工し、平成26年度中に完成させる計画だ。完成した施設にはつくば市の総合インフォメーションセンターやバス発券所、市内の研究機関の展示スペースなどが設置される予定。

マンズなどが行われる。また昨年に引き続き、のど自慢大会の「やどカラ祭」も開催される。祭りの最後には多目的グラウンドで花火を予定。詳細は、宿舎祭ホームページ(http://www.stb-tsukuba.ac.jp/yadokari/)

## 丹羽准教授が講演を行う 昆虫研究の意義を説明

生物学類と生命環境科学研究所が主催するバイオカフェが、4月16日に大学会館多目的ホールで開催された。70回目となる今回は「大人になるってなんだろ?」昆虫から学べること」と題して丹羽准教授が講演した。

丹羽准教授は「来場者の反応が良く、特に学生が興味を持って聞いてくれた」と話した。講演では「ハエが成虫になるために必要な「ペパーランド」遺伝子を中心とした研究成果を紹介し、最新のデータも使いつながり、分かりやすく解説した。参加者同士が話し合う時間も設けられ「ハエを使った研究はヒトの研究に役立つのか?」などのテーマについてディスカッションした。「ヒトとハエは体の構造が異なるため、ヒトの研究に役立つのは難しいのでは」という意見に対し丹羽准教授は、「IPS細胞開発のきっかけがショウジョウバエの研究にあったことを紹介。『全ての生物は研究に値する』という言葉があるが、昆虫研究はヒトの研究に示唆を与えることも



図を使った説明に聞き入る来場者

## マジシャンズクラブ

マジシャンズクラブでは、トランプやスカーフを使った手軽なものからステッキや鉄のリングを使う派手なものまで、さまざまな種類のマジックを練習している。各役員は映像資料や本、雑誌を参考にマジックを研究し、先輩が後輩にテクニックを伝授する。また、

「あーでもない!、彼らのショーを見れば誰もがその口にしてしまいたい。目を輝かせてショーに見入る観客。その視線の先にはマジシャンズクラブだ。マジシャンズクラブでは、トランプやスカーフを使った手軽なものからステッキや鉄のリングを使う派手なものまで、さまざまな種類のマジックを練習している。各役員は映像資料や本、雑誌を参考にマジックを研究し、先輩が後輩にテクニックを伝授する。また、

## 感動を生むサプライズ



リングを使ったマジックを披露する部員

園などでマジックを披露している。「お客さんから拍手をもらう時が一番うれしい」。マジックの

プロのマジシャンから直接指導を受けることもあり、その驚いた表情は、一番準備に手間がかかるのが舞台上がって大掛かりなマジックを披露する部員は、衣装や音楽を用意するなどの作業を、基本的に全て一人でやる。マジックの準備には長い場合、3、4カ月も掛かるといふ。部員になれば、音楽の編集技術から(衣装の)裁縫技術までいろいろな技術が身に付きますよ」と会長

する「ステージマジック」だ。どのマジックも習得には時間と努力が必要だが、ステージマジックで感動を生むサプライズは、マジックの醍醐味だ。マジックの醍醐味は、観客の反応、特にその驚いた表情だ。一番準備に手間がかかるのが舞台上がって大掛かりなマジックを披露する部員は、衣装や音楽を用意するなどの作業を、基本的に全て一人でやる。マジックの準備には長い場合、3、4カ月も掛かるといふ。部員になれば、音楽の編集技術から(衣装の)裁縫技術までいろいろな技術が身に付きますよ」と会長

# Who's Who?

## 男声合唱団メンネルコールを復活させる 川邊貴英さん (人文3年)



再びそのハーモニーが響くまで、7年の空白があった。1977年の創設後、2003年に一度解散した本学の「男声合唱団メンネルコール」だが、11年に川邊貴英さん(人文3年)を中心

を以て活動を再開し、再び歴史を刻み始めた。メンネルコールを復活させようとしたのは男声合唱部の部活動を経験した高校時代。推薦入試での合格が分ると、本学OBの先生から「大学でも男声合唱を続けるのか」と聞かれた。男声合唱に熱中していた川邊さんがうなずくとメンネルコールの「十周年記念誌」という小冊子を渡された。その先生はメンネルコールの創設者だった。先生の熱意もあり、「復活に挑戦してみるか」と決意した。2011年に入

団員たちと肩を組む川邊さん(中央)

「十周年記念誌」という小冊子を渡された。その先生はメンネルコールの創設者だった。先生の熱意もあり、「復活に挑戦してみるか」と決意した。2011年に入

## 復活目指し日々奔走 仲間の支えを実感する

学後メンネルコール復活に向け、待っていたのは苦勞の連続だった。練習やミーティングに使う教室の借り方さえ分からず、最初は学内を自転車で行き回り、使える教室を探した。そんな時に支えてくれたのは、友人やメンネルコールのOBだった。「私には能力が無いけど、周りの人に助けられてうまくできた。同年5月10日に初ミーティングを開いた。約10人が集まり、初ミーティングから約2カ月経った7月5日、復活後第一回目となる練習も行った。翌年11月には「くは市民文化祭」に出演。復活後のステージで力強く歌った。「周りのおかげ」と優しくほほ笑む。

仲間を先導する中で感じたことがある。団員に事務作業を頼んだのは良いが、自分の思う通りにはいかない。「どうしてこんなことができないんだ。自分なら……」と、もどかしくなったこともあったが、すぐに「皆それぞれ考え方も違うから、自分の中の常識にと

らわれている駄目だ」と悟った。そして「言わなくても分かると思ったけど予測が甘かった」と、うまく意図を伝えられない無力さ、団体運営の難しさを痛感した。

失敗ばかりが続いていたある時、ふと「ありがた」と団員につぶやいた。すると「ありがた」と言うのはこっちの方。お前がいるからメンネルコールがあるんだ。仲間の支えを実感した瞬間だった。「そもそも合唱は一人ではできないから。さまざまの人に教えられ助けられた。だからこそ自分なんてちっぽけだ」と、自分に言い聞かせるように繰り返しながら、助けられた人への感謝を忘れることは無い。

人と関わる上で、気を付けていることがある。「何事にも全力で当たる」ことだ。それは合唱以外でも徹底している。今年4月、環境問題に関する学生フォーラムのために訪れたカザフスタンでは、日本語学科の学生などにご

### 編集後記

寒暖の差が激しいつくばの春。私事ですが、編集期間直前まで体調を崩してしまいました。「宿舍風邪」の流行も見え隠れするところ。皆さま体調にはお気をつけて。春の風物詩としてもう一つ、それは自転車の大渋滞。学内は徒歩で移動する私ですが、4月は何度も自転車にひかれそうになりました。2年生キャンプKが先導となっ

次号は

7月16日(火)

発行予定です

学芸

## 第29回つくば芸術祭



写真部の展示に見入る来場者

3面へ

## ラグビー関東大学春季大会



相手を抜き去りトライを狙う選手

9面へ

スポーツ

## キッズ・ユニバーシティ



白衣を着て実験する子供たち

10面へ

学生生活

## Good Job 2013



新聞記者になりきり、インタビューする子供たち

11面へ

学生生活